



日

次

山

名

跡

如

家

卷

志

美

濟

日見心玉瑞珠



序

此山を地之神を鐘  
山川を觀と侍へ佛  
雲空に神明の扶護  
ふふ所なる海東國  
の亭場を新次庵一  
故

名跡

幸か不幸か此の如くは  
二世に勝縁と結ん  
諸人日々に盛んなり  
然るに雲區なるも  
来心小知もな  
事此の如く其道志

新集一冊と  
次から地  
新集一冊と

貫首大臣の御  
御事の内  
母事此の如く

ちりりばはるるあまねく諸人に  
知る志も事紙にありの也

享保十三戊申二月 雁鳥橋 義武識之



○日光山名跡誌



日光山名跡誌  
柳下野国都賀郡日光山人玉皇十代孫德天皇  
乃沙宇神護景雲元年勝道上人法用基の里  
上人の洞心藤架の室に於て法誕生法父ハ  
垂仁帝第九乃皇太子卷向木尊十有余代の孫高田  
氏高の倉麿と云へ里法母正二位左大臣吉田清麿  
乃息女なり父母嘗て子形を半と歎き同國  
出流山千手大士不續之新皇孫に七日に満

ぐる夜八葉乃蓮華のおとたけりぬ此中に若菜に  
 纏める環状の中なる物と云ふ(云)と云ふと云ふと云ふ  
 懐妊一上人を生けし則ち乃若菜おとたけり合  
 雅名と云ふ系九と号し乃若菜おとたけり合  
 七佛教子志願く破とあり先主をありては堂塔  
 建立の口と云ふ人好むは里漸く長ありて出流の  
 観音にありて種々勤行乃内に度く不思後乃  
 浩告ありて日光の用創始事成りて立給ひ

廿七歳乃法内河内國系師也はく得度一也  
 此法より重程之平素乃志と云ふと云ふと云ふ  
 本宮四奉龍寺は建立海々其後中禅寺并  
 自余乃其社くと法造宮あり和年ありて弘法大師  
 慈覺大師也云々云々云々江堂社は建立しありて  
 星霜八百余載乃後元和法法慈眼大師中真法  
 用云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
 東照大権現高山小湊鎮座ありありと云ふ云々云々

婦一三三神威海内不種一終小も編小其山の絶  
 倫小もるよのなりゆくて欠出緒乃其細素群とふこと  
 一とをもとむる堂社旧跡未其使際と尋得以且  
 番緒の志一切にてある半叶する者もあ  
 りたを述一冊と水と容易君必と稀一永く  
 遠近乃後記とを好んうとあらく一書り  
 終りて其跡結と号との也

日光山名跡誌

- 神社佛閣
- 坊舎并人里
- 名所舊跡
- 日光寺の道法
- △ 日光山入海筋 今市より日光寺三雲の石並杖
- 人里沢海りの西本戸を令々 ○ 松原町長三子を杖
- 石原町長三子 町改東例小 ○ 瑞雲山龍養寺と
- ひきあり寺内小三十三観音寺 安産以仲き安産
- 大陣一乃三礼乃佛之 並并財天堂意心の也作

なる里此寺下野坂東三十二番乃此所と云ぬる○所  
 幸所者三丁 東例中給小稻荷所の横乃あつは町  
 之町中種小徳也乃又あり 石裂衣神奉地虚空蔵并  
 此里稻荷のまもあつとて 漸孝所あり○鉢面  
 此町上中下三ツ小別あり 下津石町東例小横町  
 あり八乙女町といふ是より 稻荷町へあつは町小大滝番  
 街役屋敷あり下津石津石小室珠院宝蔵坊と云小  
 寺あり此内又親善堂あり運慶乃作下野坂東の

札所あり町向小見由小鉢石山観音寺と云寺と  
 此内山上小千手親善堂一字弘法大師乃法作あり  
 上津石町尚不塗物梳妝曲木河さあ店あり  
 右入松原町より 高町出口まで凡町長十三町餘あり  
 △下馬 此所左乃方石唐木と云の山林の池  
 △星宮 鉢殿あり奉者三人童子形虚空蔵菩薩  
 なり洞文乃清と云小高御山此山入禪の若勤乃  
 乃堂あり星の宿と云毎奉極月廿六日在乃行者下長



帷子一ツ條懸一糸はく之は勤行一唯年乃  
二月下旬に宿し出三月二日法苑出峯て天下安全  
園主豊饒乃所行地園ふは及ぶる荒所て志  
く死一か〜因ふぬと〜  
○下糸ありけはより東の方に見ゆる松山小倉山  
そのとて大ぬて山との熱して此處より至るは四方  
あり〜く〜峰〜は〜ぬるる

△御山入口 神橋 禰子擬宝珠ありつても朱塗

まり此橋古ハ山菅乃此橋と云用山傍道上文始く  
此山の河は川ふとて橋はとて深破大王忽と現  
一青赤乃三蛇を放と橋とあり給ふ上人側なる  
山菅と前蛇ふ後ひ後里給ふ山菅なる  
蛇橋と云中古より神橋と唱ふ橋乃行柳  
三通りあり日光より乳の本と云西の端一乃  
乳の本と云一穴ハ龍窟通一〜此橋は内ふ  
七社乃明神と勅請ある由業よ不淨乃者と

後さげ橋の東に八時八神事は樂沙親式あり  
常より此橋の東に彼橋ありて恒来に

○彼橋 探子あり往來乃人馬を渡す大谷川と云

川上津禪寺湖水の流なり橋向に御堂あり回廊

乃乃方の坂東山佛宏谷坊舎の乃乃之坂下に

○碑あり是は御神領場よりあり所は海乃

並松平在齋門太史湯寄進乃碑あり 回廊の上

見ゆる本宮乃社してとてより神橋向に

○深砂大王乃宮 鳥居八額ハ大明院一品准后法親王

の震筆あり本地是沙門天神橋も鏡の天神と

△東照宮への乃乃神橋乃乃あり 屯る坂を長坂

といふ事丁字程あり回廊乃乃上は月十七日九月十七日

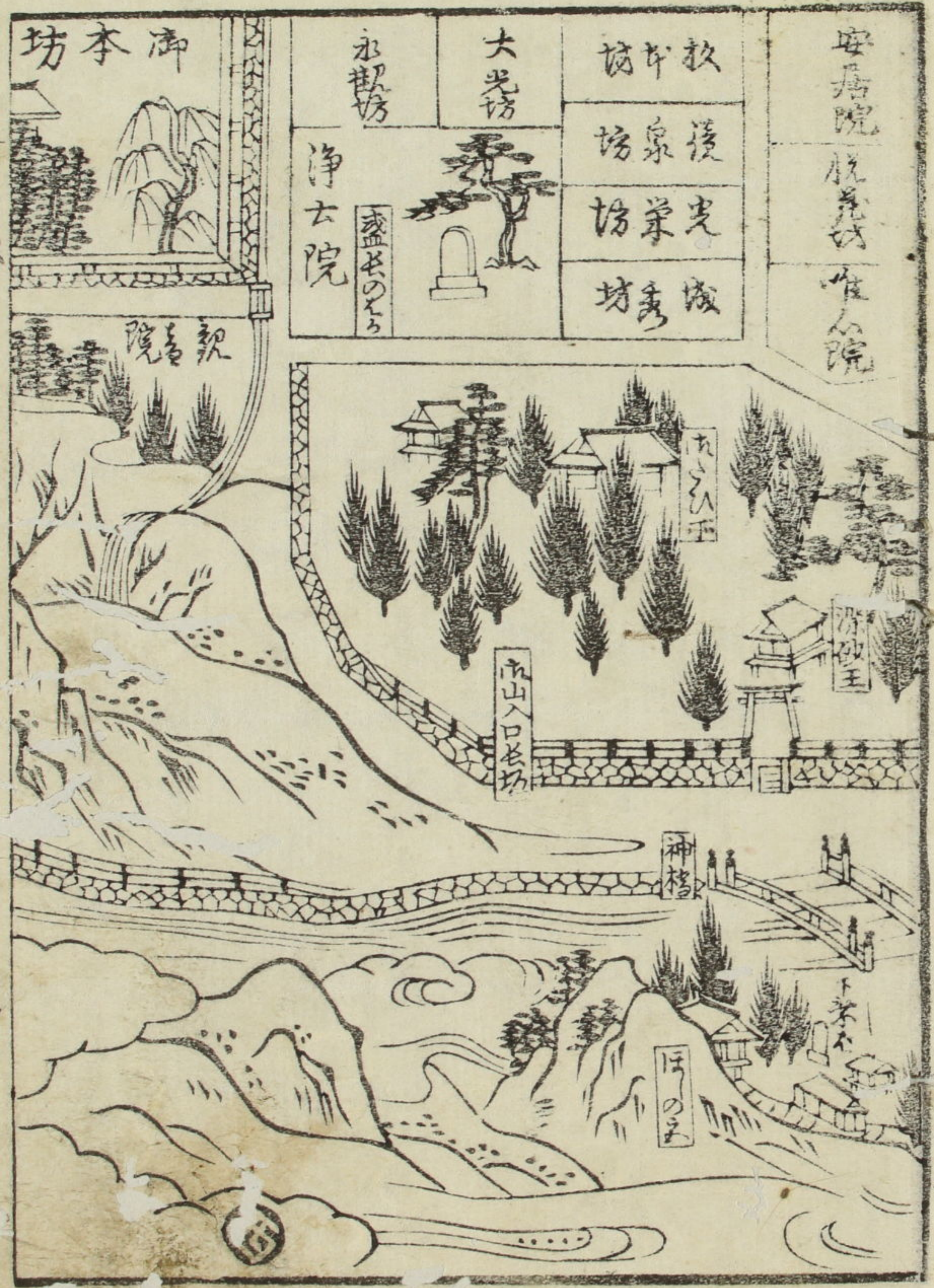
御祭禮の時後あり此系より三品立の御膳次

依へ俗人舞樂と奏しと海への御親式あり

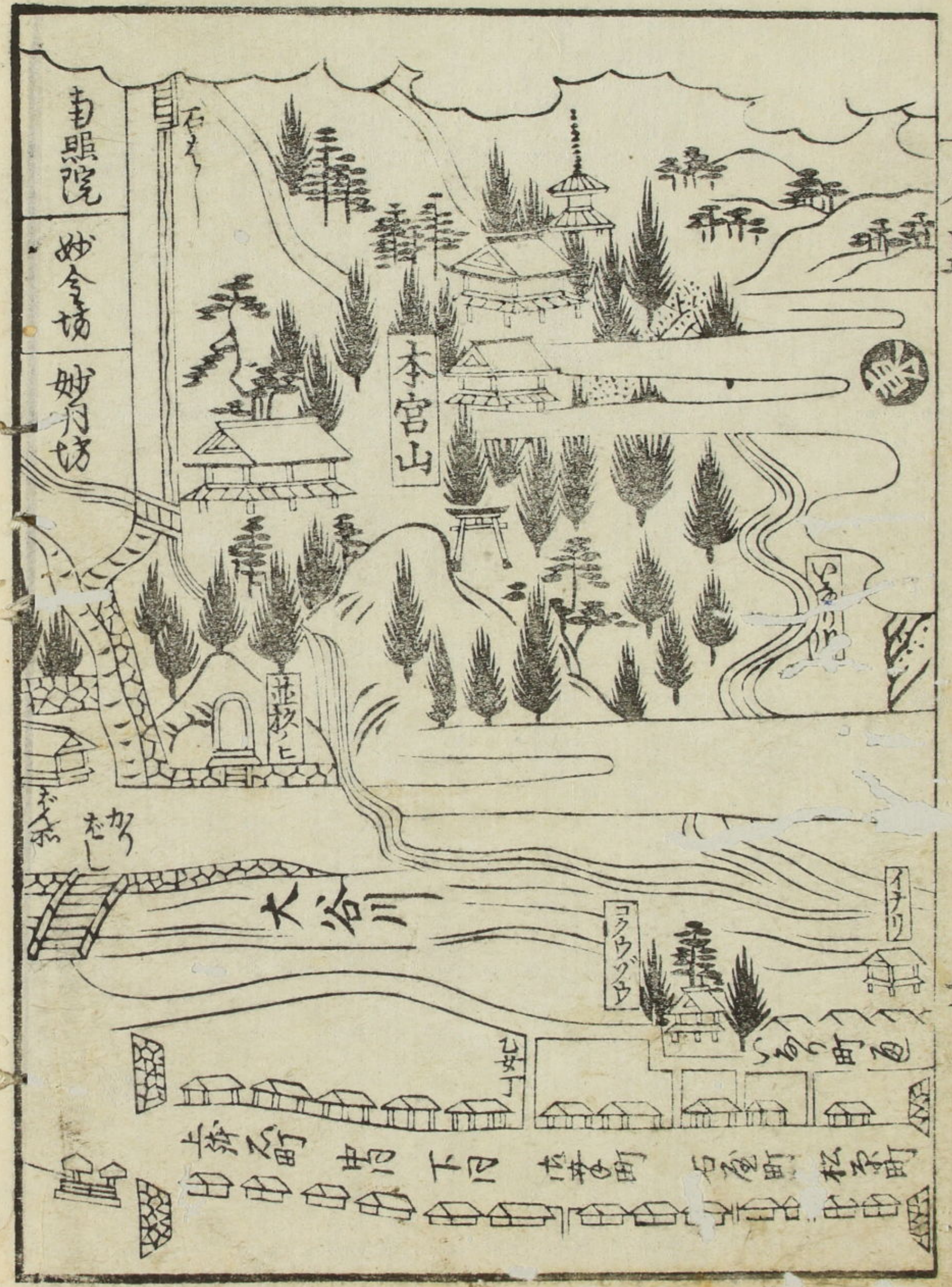
○長坂より中山より寺にありは河津土院と云

寺内小安達氏藤丸乃盛長乃右塔あり○町名

名跡



名跡



通りたの方洲圍ハ 御殿地なりたの方ハ洲築坊  
輪王寺の宮と云ふもるるれりる厚木を云ふ也

○石乃島居 是ハ黒田筑前守長政筑前守の御殿

筆名を削里南海敷百里を運ぐ元和年知月

涉寄進シ 御類ハ 後水尾院震輻シた此方

○五重乃塔 是ハ酒井 續波守涉寄進シ奉る

東の兼源 西の保陀 火釈迦 南の多室 中央の天目シ

○御修殿 是ハ 御宮涉 造替乃法時 下遷宮也

もるもなるは西みく二六時の撞と撞りりする  
新月十日に八層上ありて毎年洲邊となる則  
度廻乃登三あり

○仁王御前 是乃門ありて厚木御殿在龍亀兩基ハ

若狭國自酒井 續波守深右膳朝臣涉守納河太左京

○洲番所ありて此所はくわがりおくら物とぬきし並

て宿と丸右石垣の御小堅横云間解法大右あり

あはれ丸河は先在る人きづの宿とぬきし

仁王御門 におうごりん 左右阿呼王長 さゆうあむんのちゆうじやう 一丈八金裏のむら いちぢやうはちきんうらのむら

唐獅子形 たうししゆけい 此御門と云ふなるは金龍籠の地蔵 このごりんと云ふなるはきんりゆうかごのぢさう

ありあきの徳大寺 ありのあきのとくだいじ 虎より湯を汲てこて木の丸 とらよりゆをくみてこて木のまる

御藏 ござう 三不仕塔 さんふしとう ○ 御厨ありた方 ○ 槇一株 ごくちありたかた ○ まきいちぢう

御蔵 ござう 素木造之湯神馬三疋あり常小川下 すきぞうのゆかみたまさんつぱありつねのせがわした

厩 うまや 立 御祭礼の時討てある ○ 御番所 うまや たつ ごさいれいの時うてある ○ ごばんじよ

御手水屋 ごてすゐや け湯手水屋みの常石柱はく建り けゆてすゐやみのつねいしじゆうはくたて

天井の彫物 てんじやうのぢやうぶつ 海小龍 うみせうりゆう 龍ありし水石鉢 りゆうありしみすいしせき 肥前 ひぜん

佐賀乃 さげの 城主 ぢゆうしゆ 堀嶋 ほりじま 信濃守 しんぬしゆ 把前 へせん より石火 いしひ 守 まも びて

湯 ゆ 納 のり へ糸 いと 指 さし の男女 のおんなやうし 子 こ 洗 せん ひは漱 すす せしとれり

唐洞御華表 たうどうごけり 同左乃方 どうざのかた ○ 一切 いっけつ 經堂 きやうだう 傳 でん 大士 だいし 像 ざう

あり條 ありじょう 不 ふ 疑 ぎ 仁 に と云 と云 こそ こそ 石 いし 屋 や を を 宅 たく せ せ て て 方 かた 不 ふ

鐘樓鼓櫓 かねろうこ 同左乃方 どうざのかた 以 も 旗 かた 鮮 せん より獻 けん 上 じやう 乃 の

迴 まわ 金 かね 燭 さく 其 その あり あり 并 なら 河 か 蘭 らん 泥 でい より献 けん 必 かならず 約 やく 金 かね 燭 さく 臺 たい

もあり同左乃方 もありどうざのかた 小 せう 胡 こ 鮮 せん より獻 けん 必 かならず 石 いし 燈 とう 臺 たい あり

寺 てら 鐘 かね 乃 の 小 せう 胡 こ 鮮 せん より獻 けん 必 かならず 石 いし 燈 とう 臺 たい あり



此御門乃續梅舌端不及之筆鋒にも  
彫物ありくやぞへるに琴基書画周巨  
欽揚貴長房盧教琴高阮籍嵇康豊子王子猷  
孔子顔回とちどめを介三笑回友六倍九哲に  
あるちを悉く記し不筆も及んぬ歎の豹虎  
就新 麟獅子 獲つるも角木の樹不刻あり  
あるひいとの中ふあうるもあつた風凰孔雀  
そ介名も少及るを多し我は乃禽獸ハ

いふ不及をいふも松彩色するに減金乃  
めり物にまゆく難い御門より突つた中と扱と  
目ふ侍らぬ風情あり中の通り乃天井の能い  
将聖探幽守信事し四乃同の天井あり天女畫  
里ち名御田廓折曲し百間金あり何れもの  
樂天が友子猷が友君と極しもの文を好れま  
をとおしくくやぞへるに御門を今庭よに  
痛むる要ふに緒川 又鬼怒江より石をとりたり

名目

二

おどろく左様うゑふ

○神樂堂 これハ二番子 御祭礼の時出立

出立形もし何トく左方に

○神樂堂 毎日ハ乙女出立ハ神楽舞ハ何トく並

○護摩堂 本尊ハ大尊ハ明王十二天を安置

おろく正五九月十日より十七日まで天下安全乃

清形禱護ハを修せし

○浄唐門 素木造り柱ハ上り籠り新梅竹

乃彫物あり物あり 向形風ハ件由果あり

七賢七福神ハの彫物あり天井ハ天女の彫物

此門ハあり唐木ハ以て営あり

彫物多く丁寧なる事ハ其一枚の板との海

溝ありものゆへ何月と細やある

月して檜飾なる事あり

線ハ今ものし御屋根木ハ唐烟ハ

むー懸架あり浄門乃左



○御瑞籬

此彫物千尋方本此花やうり

此にてもりくの色々いそれりまほびし

整康がまけし山に小控をけりて花にけり

○御拜殿

鯉口三雲小切まきり糸袴の男婦

是より舞し御舞殿乃内左太子

御着座乃間あり清兼塵に三千六歌仙とけりる

舟ハ後水尾院震輪形り徳の左近衛監軍

りる御着座の間ハ友同とをふ美細の若木

香樹を集めて造る御座を偶其室小令の

深きよりよ承おのほろろ芳しく椒蘭次り

してそは白ひ敷日除く海に麗ふ鳥乃

羽毛乃類金王をたね眼乃内ふ入る廻り

はくして麗れ周園乃度おとれこれ眼くま

羽翹へともとの指ひあり熱く御座乃

雄羨いふゆる鞆も子沢捲屋し次指記葉

を以て書ともる屋にあり



△御本社

折當御社八王百有余代

後陽成院

後水尾院 西院乃御宇に當て是下法

氏將小傳 色西ひそ吐控乃勞を躬にて寫

乃海八島法外高藤唐赤をそ〜びとせえ

久安〜元和二年四月十七日御壽等七十三歳

所〜他界あり慈〜慈眼大降と縁トめ

海契約あり〜川山王神道とひ〜祭ありたまる

此法時

勅使下向

東照宮大権現と尊号と贈〜せ給ふ 御代

天下と掌乃他ふせ〜勢むひ龜尾の〜長

鶴乃警幾重か〜おりて泰平を〜千万

〜成〜給〜ん事〜く小島社乃神徳

大なるによるものなり〜御衣〜の薬師溜瑠

光也〜乃應作相殿ハ磨多羅神山王大権現

あまを 東照三社〜毎奉四月十七日

九月十七日御神事あり四月十六日ハ例幣使  
 と下し給ひて宣命ヲ指する武江あり 御若代  
 として高家元一人侍奉勤則 御祭禮多し  
 一々大急流二人奉勤則 御祭禮多し  
 當社の湯祝式嚴禁あり新井の中へ等言ん  
 清く一山法師僧元社役の面々給人出仕ありと  
 天下安平乃湯行里安事

○奥乃院 御本社の後山上あり 御宝塔一宇あり  
 洞あり并湯拜殿湯宝藏あり此所の湯後ともみ  
 参詣すべし 湯宮より下向して仁王湯門あり此  
 所の湯 ○御別所大樂院  
 東照宮湯別當寺なり毎日湯あり 神像と  
 備へらるる形あり仁王湯門あり西の湯入 新宮  
 権現の湯場あり是より三佛堂まで二丁  
 湯物志のこみ

△相輪標 佛の傳教大陣六十四白乃法教文と  
 紀しく敷山と始り日本六所不建中と云  
 是六十余列の法あり切徳無及あり紙を以て  
 善眼大師為山ふり建立ありと云は風ふある  
 人倫のふ及るべし獸草木の類ひそて併集  
 清と云は清を報と一見結縁の軍に現在に  
 益量乃器と減し未來の永く三悪遠く  
 離るるなりゆふ疑あるべし甚深微妙法

旨あるゆくりくり記し  
 △新宮の鳥居 御額 正一位勲一等日光大権現  
 とあり一品宮公寛親王法衣翰あり  
 △三佛堂 尚山 乃大伽藍し中言ひ弥陀如来  
 九尺五寸千手馬頭おのく八尺寸慈覺大陣の  
 以作あり日光三社大権現乃法本也堂と堂此  
 肉乾の隅小勝道上人の法影あり良の隅に  
 軍荼利明王の像あり法堂の謂永とれを



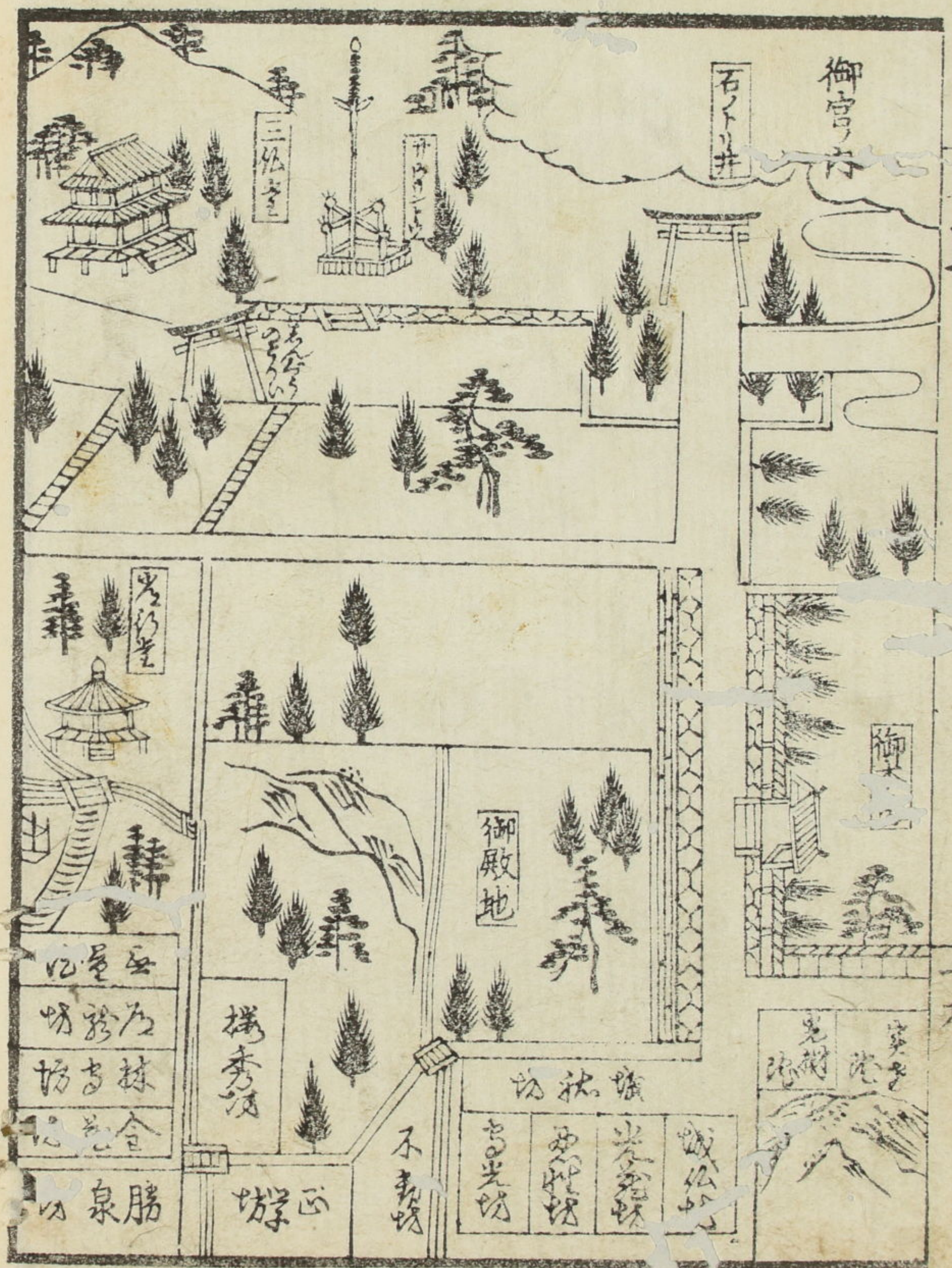
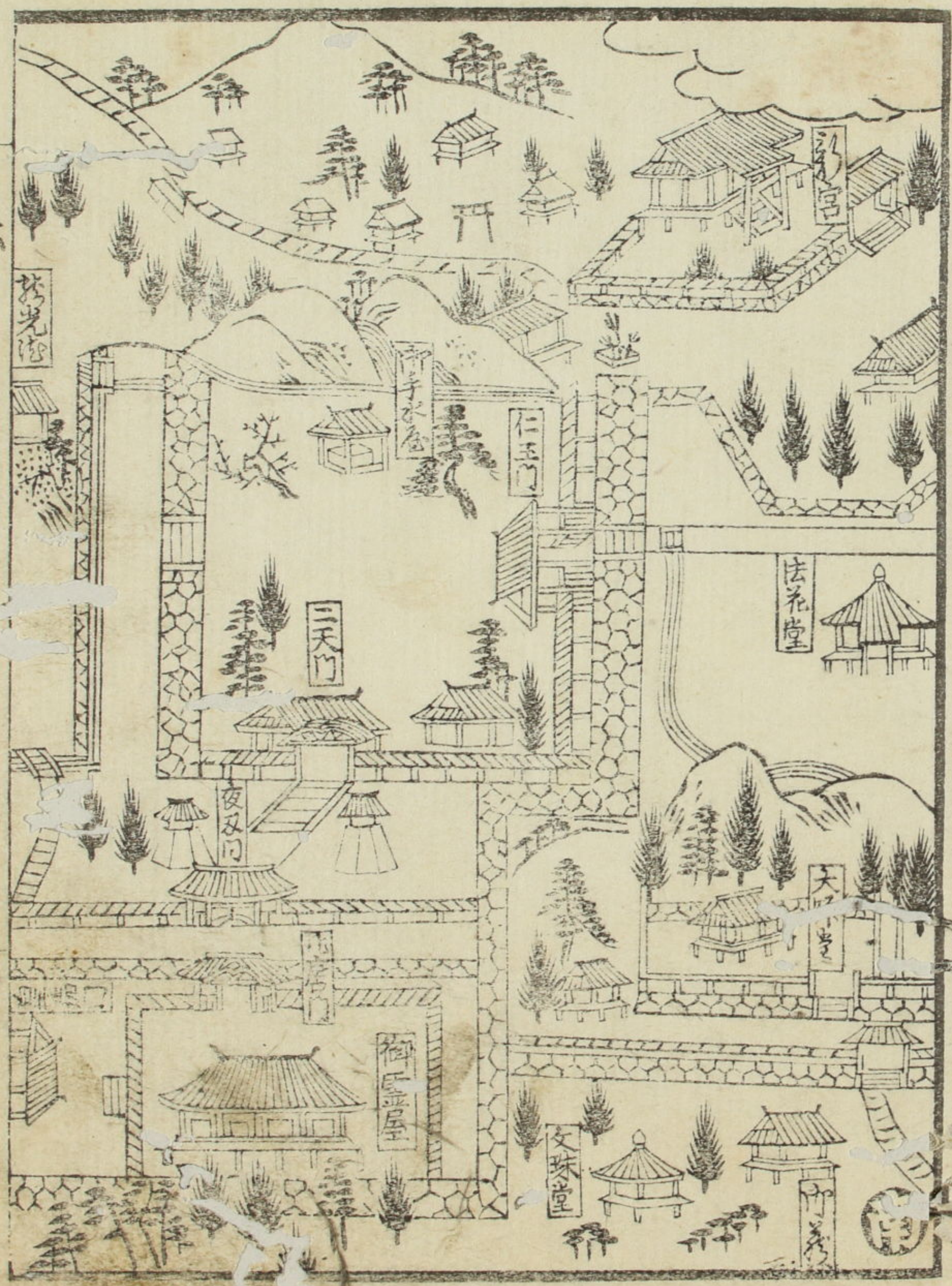
此の寺あり今の兩大師の法一辨なり法華殿  
 乃あり浄土水屋并浄三空の法大なるなり  
 上り石燈籠あり因縁の及なり○龜井  
 乃水○稻荷の中あり○石燈乃宮あり因縁の及  
 小島山 御座主御所あり  
 本照院宮 久遠壽院准后 解脱院宮 大明院宮  
 浄石塔あり因縁○文殊堂大師乃浄本堂  
 求圓持堂并小幢拂經藏法供所ありこれら

三丁ほどよきあり○御別当無量院の寺あり  
 △大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
 島山小入あり浄穢ハ先惣門小仁王あり次は三天  
 門浄額ハ 浄水尾院御倉庫あり次は夜叉門  
 次は浄土門中瑞籬御穢殿浄本堂あり此  
 法堂乃花美なり  
 東照宮よおれ 彫り  
 彩色木さかぐら七宝と心あり浄構乃浄  
 法大なる献上の石燈籠金燈籠五百基あり

名目

一

名亦



名亦

名亦

以是  
 坊於乃  
 坊古林  
 坊是合  
 以泉勝

橋秀波

坊學心

不表坊

御殿地

坊秋城

坊光坊  
 坊光坊  
 坊光坊  
 坊光坊

坊光坊  
 坊光坊



朝鮮より執ざる金燈籠あり此御堂への系指

とゆふべし毎季正月廿日四月廿日 御名代

とて大老元系勅あり并小治三夜は老津方

と皇沙代拜あり同承水のり

○河別不龍光院 毎朝所膳と備ふ

△新宮大権現 八棟造ありあけ拜殿あり

日光山大権現と祓トする番迹ハ大已貴尊本塔

子承親者あり社記を仁明天皇は嘉祥年中

慈覺大師法達立形り元國中の大社あり

東疆はるくあり此権現乃御利益五穀成純福

徳圓儀乃御神形り方民奉く作さるる

さるるに神宝は 祓切丸 奇世の御聖 太刀

拍太刀は長も五尺余あり具釵あり并小山判官

是の禮甲との介玉は麻ととり琵琶あり

欄楯一ツ重さ五百石あり形制公階 聖書

是ハ角列泰衡追代ノ御指し是の御書

その外御室物ありしことありて六祀とて  
 申は其勝道上人 権現の御由は時衣の細  
 小後書より神教も此社内不納より  
 毎年三月二日祭れし二月廿八日より祭あり  
 三社乃神輿と飾り墨供奉乃氏子八枝  
 祭日より 祭者一 其白不きく祝ひ祭業  
 とりては 祭人 祭りお作を由ありと  
 神輿といふなる 神輿八年に一回あり

三佛堂あり延年乃舞といふ祭あり一山  
 乃流使中必朝しも社と坐の方ふ ○金剛堂  
 ○慈覚堂 素木遷移のなる慈覚大師法  
 師教書より三十番神不動者と安堂以 ○御供所  
 ○新文沙列不安難院 文殊乃像千子乃像あり  
 常の堂ひびりの方あり  
 ○新宮末社 ○十八王子 ○昆波門 ○山王社  
 ○阿弥陀堂 慈覚大師の ○三尊 御供所あり

○大累天堂 運慶乃作之 ○十王堂 ○地藏石

さして日向の山ありハ龍光院表門形は是なり

表乃方滝乃尾乃入 影乃あり滝尾を十二丁

余あり小坂とあり中乃どに

○薬師堂 此乃あり清水出るとんと汲く園と

流くを庭繫立而小晴る是は乃のて園流を築脚と云

○行者堂 坂乃とあり小あり本乃役行者し

小小道公寮兼小 ○御番亦あり坂坂乃り藤小

○石橋あり 是と築遠橋と云 くらあり 大小彼岸小割の

西乃りともきより一丁乃り

△山王社 向拜造りありありあり居あり此社

高御年中 慈覺大師 内遠宮聖真子大権現あり

所乃石村山王と仰ぐ七社乃内あり

○不動堂 本乃三童子とも中運堂乃作しはあり

滝尾と云流く石尾本乃山乃りて末乃 ○三心立

赤金大明神乃石社ありたの方乃 ○坂中不動石佛

あり○（熊野）杖々々著休養八場あり坂上  
○御別所 （此所）日光責々々食物と心む  
者おきを其食物と五（強毒）るるしひるかひふ  
接持るるの責々々異おきし後々々ひひるる又  
大々々おきるるもありおきし別所へひひるる  
及々々坊中何方ひくもい事あり他あり  
里々々ひひるる年々々人ひひ編々々形々々  
御宮 御霊屋 沙代系北大々々大々々の

朱客へひ地走のめ飯と終る半古例ししる  
日光の如く難子婚礼新室未の終るるひひ  
ひひひ日光責々々とひひひひ故あり半ひ  
く人々ひひ其々々祈禱と物々々しひひ  
氏家の地々々素新とありして甘め々々  
西竹別所あり流の向河素新谷々々  
○正観音堂 本々々長戸余并三十番神例あり  
○採燈護摩所 本々々石佛の不動尊々々

三

三

入峯乃僧流物りたる儀一れいんおとく是論いんあり  
 一ししつる事の別ありともらんあるなり  
 ○石乃多居 比志の方以掃薩あり常少掃公何  
 ○樓門 表以仁王裏、風雷乃二天と蓬り勢、弘法  
 大師の湯筆はく女躰中宮とあり尚門と今何殊教  
 ○御本社 向拜造り滝尾大権現の田心非余  
 乃全迹はく本如阿弥陀如身あり女流社人王五王代  
 嵯峨天皇乃湯新おとく以造營あり凡何之のわら

明も眞徳高社よともありと今里相以神宝あり  
 弘法大師の筆書と志、観た観の不動書内を正  
 摺乃志書、秘書に仁王との本書とあると今、面  
 ちん何れと云面とれい天より海へ面とて火出ると  
 水おるといふ宝物あり、今あり、此社何の方ふ  
 ○千手堂 宝形違ふかまると今、余弘法大師の湯作  
 ○御本堂 本堂河海院、観音勢美の書を、勢美  
 の湯外あり、凡日本、三峰の本も、ありとて、何、湯、

○根木社 小形しおきうり面のうへの方あり

○子種石 ありある者ありみぬき入いりてあり

○ありの成利生ゆきともありききうり

○泉の御涌池 此御屋と入海とありむいりしあり

酒涌出るとくまへいふなるとありて海の裏あり是水

ゆきび中よありて根木・神才天なり

○三本杖 本社の後ふあり三杖の杖ありいさきとあり

○三千番神堂 鉄塔 是は六十ある納経乃

本形は是よりト向と及のくろくふの御堂杖 此杖

古きより杖ありかのかの杖とありし杖より下せり者

いさき(一)根木川 ともありてあり又及のあり

○御神馬碑 是は御籍の御馬なり慶長庚子の

年濃州園東御陣の幕も此馬はる是は御利

ありし碑の傍に墨書ありて是とあり

○を掛るは是むいり根木の池とありてあり

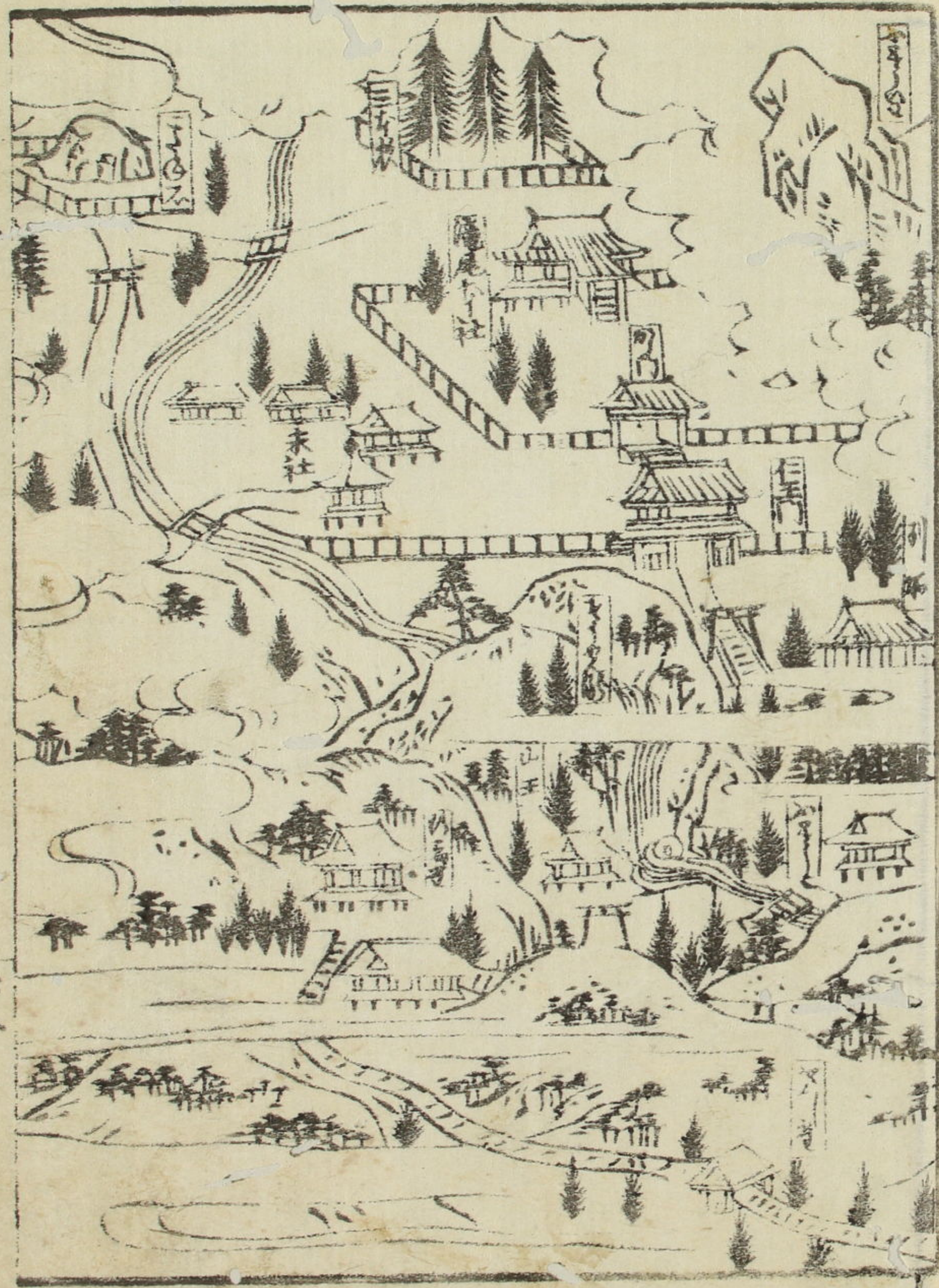
とくし根木の方へ猪河川とありてあり

△和歌 いかふ昆虫の天立を待たぬ高みの懸りに  
 あふくささげにた光身いふ西尾 台市念目み  
 く高橋秘集ととのゆのふに ○氷思とくこま  
 舟ふも氷ふと又海との家 ○不動のあり  
 程ふゆく今いし七滝の氷ふさくいひのま  
 七本さるる舟りいふ人輩はひひ  
 ○天神社 鶴尾の十向をたのふふるふあり  
 石の中へいふれい寛文元年二月廿五日

石の是よりト向をたのふ ○版盛抄 此抄  
 古書少枝少りかの枝しらひ中身しせり物  
 いふと ○折所川 とうま折れを井あり又たのふ  
 ○御神馬碑 是の所籍の湯馬多り慶長庚子の  
 米濃州園東御陣の所も此馬に色色は徳利  
 ありしし碑の徳い置霜ありて又てさし  
 ○石掛石 いかむいり 柱の徳いし  
 とくし徳たのふは稲荷川に白くさすか







の形入の○河原裏に上人の所墓所出守みあへの  
 墓あり上人の所骨ハ中禪寺上野橋小橋あり  
 △御産宮 向拜遠り尚社ハ本世普賢菩薩之  
 じ所よあわく懐胎乃女立頼と進正安産りり  
 子奇妙形の河原乃らふふ  
 △白山権現 本如大形十一面 えてく進り入坊舎の  
 まとおつて本夫(つら  
 △小玉堂 鳥居拜殿あり尚社天神星社神

ありあ世金輪社のもま進秘事きんを  
 かつ是より一丁ほど行て奉宮の境内入る程と  
 見りまあまあり乃堂ハ  
 △四本龍寺 宝形あり奉宮ハ千手観音も兼次  
 五大も傍道とあままと尚山岡山のともと上人住居  
 ありしころあり  
 ○三重塔 奉宮 釈迦 文殊 普賢し  
 ○御本社 奉宮 秘殿あり 奉宮大権現ハ



如<sup>おのづから</sup>りるる<sup>ちか</sup>り多<sup>おほ</sup>く世<sup>よ</sup>別<sup>わか</sup>れ乃<sup>な</sup>西<sup>にし</sup>の<sup>の</sup>森<sup>もり</sup>の<sup>の</sup>村<sup>むら</sup>

△三乃<sup>さん</sup>宮<sup>みや</sup>幸<sup>ゆき</sup>地<sup>ち</sup>普<sup>ふ</sup>賢<sup>けん</sup>兼<sup>かね</sup> △一<sup>いち</sup>乃<sup>の</sup>宮<sup>みや</sup> 熊野<sup>くまの</sup>権<sup>ごん</sup>現<sup>げん</sup>に<sup>く</sup> 本地<sup>ほんち</sup>功<sup>こう</sup>珠<sup>しゆ</sup>兼<sup>かね</sup>に<sup>く</sup> い<sup>い</sup>女<sup>によ</sup>社<sup>しゃ</sup>の

漸<sup>あ</sup>後<sup>ご</sup>水<sup>みづ</sup>の<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>ふ<sup>ふ</sup>多<sup>た</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>そ<sup>そ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>神<sup>かみ</sup>橋<sup>はし</sup>の<sup>の</sup>本<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup>て

西<sup>にし</sup>谷<sup>や</sup>の<sup>の</sup>坊<sup>ぼう</sup>舎<sup>しゃ</sup>并<sup>なら</sup>西<sup>にし</sup>町<sup>まち</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup>と<sup>と</sup>大<sup>おほ</sup>谷<sup>や</sup>川<sup>がわ</sup>の<sup>の</sup>川<sup>がわ</sup>端<sup>はた</sup>と<sup>と</sup>あり<sup>り</sup>し

△又<sup>また</sup>是<sup>こゝ</sup>より<sup>より</sup>北<sup>きた</sup>の方<sup>かた</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup>川<sup>がわ</sup>と<sup>と</sup>渡<sup>わた</sup>り<sup>り</sup>七<sup>しち</sup>町<sup>まち</sup>程<sup>ほど</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup>て<sup>て</sup>美<sup>み</sup>台<sup>たい</sup>澤<sup>さく</sup>院<sup>いん</sup>

あり<sup>り</sup>真<sup>ま</sup>雲<sup>うん</sup>院<sup>いん</sup>と<sup>と</sup>号<sup>ごう</sup>に<sup>に</sup>當<sup>あた</sup>り<sup>り</sup>街<sup>まち</sup>産<sup>さん</sup>主<sup>しゆ</sup> 官<sup>くわん</sup>様<sup>さま</sup>漸<sup>あ</sup>建<sup>けん</sup>立<sup>りつ</sup>

渡<sup>わた</sup>り<sup>り</sup>樓<sup>ろう</sup>門<sup>もん</sup>宇<sup>う</sup>堂<sup>どう</sup>并<sup>なら</sup>三<sup>さん</sup>社<sup>しゃ</sup>権<sup>ごん</sup>現<sup>げん</sup>と<sup>と</sup>社<sup>しゃ</sup>切<sup>せつ</sup>経<sup>けい</sup>藏<sup>ざう</sup>亦<sup>また</sup>建<sup>けん</sup>立<sup>りつ</sup>里<sup>り</sup>塵<sup>ちん</sup>

外<sup>ぐわい</sup>幽<sup>ゆう</sup>閑<sup>かん</sup>の<sup>の</sup>靈<sup>れい</sup>場<sup>じやう</sup>殊<sup>こと</sup>勝<sup>せん</sup>あり<sup>り</sup>半<sup>はん</sup>云<sup>いふ</sup>彼<sup>か</sup>の<sup>の</sup>に<sup>に</sup>し<sup>し</sup>街<sup>まち</sup>頭<sup>がしら</sup>に<sup>に</sup>

戒<sup>かい</sup>光<sup>くわう</sup>殿<sup>でん</sup>一<sup>いち</sup>品<sup>ひん</sup>法<sup>ぽう</sup>親<sup>しん</sup>王<sup>わう</sup>漸<sup>あ</sup>履<sup>り</sup>筆<sup>ひつ</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup> △南<sup>なん</sup>谷<sup>や</sup> 西<sup>にし</sup>谷<sup>や</sup>

善<sup>ぜん</sup>女<sup>によ</sup>寺<sup>じ</sup>谷<sup>や</sup> の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>神<sup>かみ</sup>橋<sup>はし</sup>より<sup>より</sup>西<sup>にし</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup>

乃<sup>の</sup>法<sup>ぽう</sup>七<sup>しち</sup>八<sup>はち</sup>町<sup>まち</sup>あり<sup>り</sup>并<sup>なら</sup>日<sup>にち</sup>光<sup>くわう</sup>漸<sup>あ</sup>奉<sup>ほう</sup>行<sup>かう</sup>街<sup>まち</sup>因<sup>いん</sup>代<sup>だい</sup>火<sup>か</sup>満<sup>まん</sup>

此<sup>こゝ</sup>番<sup>ばん</sup>等<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>屋<sup>や</sup>敷<sup>しき</sup>へ<sup>へ</sup>も<sup>も</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>び</sup>筋<sup>すぢ</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>是<sup>こゝ</sup>より<sup>より</sup>西<sup>にし</sup>町<sup>まち</sup>へ<sup>へ</sup>つ<sup>つ</sup>る

そ<sup>その</sup>の<sup>の</sup>中<sup>なかつ</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup> ○日<sup>にち</sup>軒<sup>けん</sup>町<sup>まち</sup> ○原<sup>はら</sup>町<sup>まち</sup> ○小<sup>こ</sup>袋<sup>ふくろ</sup>町<sup>まち</sup> ○本<sup>ほん</sup>町<sup>まち</sup>

上<sup>かみ</sup>中<sup>なかつ</sup>下<sup>した</sup> 三<sup>さん</sup>丁<sup>ぢやう</sup>あり<sup>り</sup> ○大<sup>おほ</sup>二<sup>に</sup>町<sup>まち</sup> 上<sup>かみ</sup>中<sup>なかつ</sup>下<sup>した</sup> ○板<sup>いた</sup>枕<sup>まくら</sup>町<sup>まち</sup> ○蓮<sup>れん</sup>華<sup>け</sup>奇<sup>き</sup> 此<sup>こゝ</sup>の<sup>の</sup>中<sup>なかつ</sup>に<sup>に</sup>

手<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>田<sup>い</sup>母<sup>ぼ</sup>沃<sup>わく</sup>と<sup>と</sup>して<sup>して</sup>高<sup>たか</sup>摺<sup>すり</sup>あり<sup>り</sup> △妙<sup>めう</sup>道<sup>どう</sup>院<sup>いん</sup> 原<sup>はら</sup>町<sup>まち</sup>の

と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>母<sup>ぼ</sup>寺<sup>じ</sup>一<sup>いち</sup>山<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>菩<sup>ぼ</sup>提<sup>だい</sup>所<sup>じよ</sup>に<sup>に</sup>寺<sup>じ</sup>内<sup>ない</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup> ○釈<sup>しゃく</sup>迦<sup>か</sup>堂<sup>どう</sup>

本寺の産像の釈迦 文殊 普賢 惠心の古伽し  
 美目眼大師の法教あり 大猷院様殉死乃

緒士位牌あり堂の外に殉死の石碑とあり生堂あり  
 常住不空の念佛と終む堂れうーろみ

○愛宕山大権現 寺形美且伽し伽河出て町路ふ

○八幡社 高町の法守あり美小 ○六地藏堂は堂の

うしろに寺の宗光寺あり神橋あり宗光寺三平

町余あり法及入島の宿あり ○延命地蔵堂はれうろ七町

乃て ○此石は石のよみ不形ありて五二ありて堂

又俗ふむむういけづきといふ名馬は石の中より出た馬は

蹄の跡ありとむとれ六丁程あり宗光の地に入し入景

△二本松 高山一の大杖めく大い牛込がむ

下ノ屋を換そく二乃木お對せりけり茶店

ありこてすく六七丁程ありたれり

○常念佛堂 本寺の法院三尊惠心乃法伽あり

美立ハ別又法院を安置及世堂あり 釘念佛乃



此の御記の事又いふ所の御記ありて  
 常任不怠の念仏廻りて御堂にいら  
 行高依の久祖覺源上人の御記ありて  
 圖玉の御記ありて清取乃印文ありて  
 此の御記の事又いふ所の御記ありて  
 東國持堂 本堂の虚空藏并慈覺の御記あり  
 御記 一品准后法親王長頼の御記あり  
 て御記ありて三十番神堂 御記ありて

○不動堂并 ○三笠赤倉の御社ありて  
 ○御本社 宋光大権現へ下照姫命并比年御文  
 ありて社に弘仁十一度子年弘法大師御開基し  
 御堂物ハ十二の手紙白紙乃續てその御記あり  
 此の御記の事又いふ所の御記ありて  
 御記の事又いふ所の御記ありて  
 滝乃御記の事又いふ所の御記ありて  
 死に御記の事又いふ所の御記ありて

亦

上ふ○三子山○大馬山奥ふ令○富士のふあり  
 比山のふ富士乃高根なるる杉ゆげに○川俣法  
 温泉あり常しく女人の入湯なり柳本結のり  
 下りて○別所あり寺内小辨才天十の童子は  
 安曇と此寺の良乃さふ○羽黒滝との入湯なる  
 西れのゆり東海あり本町大工所とゆるきあり  
 △往生院 比叡一山の墓あり樓門の額に法隆寺  
 乃寺令 妙覚門とあり比寺の室物あり同ふふ

○阿弥陀堂 奉為三子乃法隆寺長日の地なりこれ  
 のう入谷川の橋とよきまに西河原とて小町あり  
 △慈雲寺 神橋あり乃法十三町あり  
 鞍馬へ慈覺天師し法隆の釈迦あり寺のま  
 へ大谷川なりこれありゆき雲乃上  
 △護国堂 比叡合満が淵あり向小比叡のうり  
 不動なる佛淵と傳へてより比叡の淵なる  
 ありは憾捨の梵字ありこれありゆきたはる







石ありとんらう海邊の方よりくまらふ  
 △三の久山 本世薬師如來金剛童子乃堂もの  
 お解りはるる○金剛山いふふ化粧の宿そ入  
 ぶ伏の宿あり秘蔵靴のた備ありい所へ  
 人知ふ所むは清くふまらふ山敷れ見ゆふ  
 ○松立山これも今峯野行の所ありありい  
 ふ見くく 嶽くは皆是神の立せある所あり  
 くりくは記ぐり

△中禪寺への道筋 但神橋より中福寺と三里  
 原野子あり田母以の橋とらりて川  
 蓮花石所 坂とやまらと○遊庵堂あり所の中  
 ぼくか○蓮花石ありいびふびり 傍道中福寺  
 ありありの村やうひ路やとと里のりゆへ  
 ありあり蓮花石とりのたのめあまのら  
 △十八王子 是は山所の落守し是よりえ田舎  
 くるふ久三良村と云ふありい村は社家危最後  
 の地

本村小△茶脚堂 カキマン 本寺茶脚二葉 希土神十三  
 兼手染多し神のあり又まをむるあり  
 二町余坊々たるあり△大日堂 カキマン 本寺茶脚の  
 大日し午辨佛と安曇の河原の御堂あり  
 此の北の北の伏見あり 乾小段と仰入此階  
 兼佛ありてを深造乃ゆき偶に所ふまを  
 此の寺ありもまはまありとありとあり  
 かく聖一の堂し又大日堂の別をたのり

本村の△茶脚堂 カキマン 本寺茶脚二葉 希土神十三  
 兼手染多し神のあり又まをむるあり  
 二町余坊々たるあり△大日堂 カキマン 本寺茶脚の  
 大日し午辨佛と安曇の河原の御堂あり  
 此の北の北の伏見あり 乾小段と仰入此階  
 兼佛ありてを深造乃ゆき偶に所ふまを  
 此の寺ありもまはまありとありとあり  
 かく聖一の堂し又大日堂の別をたのり



たよりふりたる五里に居りて是處を通り上野も  
 所へ行くを觀望する處ありたのりたる寺作坊を  
 ○水沢村を過ぎて坂とせり石段ありて○半三  
 坂といふところありて坂を降るとり  
 馬返村 ありて中野と合する由ありて  
 女人もくたりの草ありたり是より日老より二里  
 あり河原とせり○深沢茶屋あり坂に上りて  
 ありて○大平

○不動堂 石段して上りてこれに  
 經の坂とせり是より八丁ほどありて  
 ○本石ありて是より八丁ほどありて  
 ○初御門 此より下りてありて  
 駕より下りてありて是より八丁ほどありて  
 △中禅寺別所 補陀落山中禅寺ありて  
 是より八丁ほどありて是より八丁ほどありて

名所

里

蘇州の所々凡そ城にも多きなる人々一は此に  
 住者ども此地に別ての仙境と今と傳ふるは地  
 甚稀とも人如ふ多き記者なりとも汚濁乃公時  
 と信公行小湯を以り小半なりとの言ある  
 半海とんとすのふ云多き如く記するふ言れ立  
 西とて一ふは湖水長三里幅三里あり人の里半  
 海あり四面又茂林脩行あり湖よ蓋ありと  
 一も中葉ひとりも水西に深き底あり

深きれを魚ひるもの傍に深きけあり  
 熱くして山内小大湖三つありと外中記湖と  
 もに四十八湖あり也るも山の頂ふ多く湖ある半  
 奇代乃其山形の中湖れ者小○溪の地を云  
 ありと述より其れ大なる居を今くたに○撞橋  
 ○不動堂 奉旨由五大明王 ○妙見社 又夫王の亦も云し  
 ありと録あり本地龍樹菩薩なり  
 ○立木観音堂 奉旨千手観音法長一丈六尺并

召赤

四二

四天王乃像あり猪乃上人立本とての像彫刻  
諸小像坂東十八番乃札形あり素僧の用帳  
と教小少別所の出家へいひ在せし用帳す  
元他より例あり又像あり 其大なる像弘法の  
唯勝道上人乃沙教あり  
御本社 前に神庭あり 尚社文持現の日光  
三社乃本社に之奉世弥陀千手馬頭延慶年中  
乃造営形あり神室ハ 蕪悉地經一卷 金字乃

法華經一部 八葉の鏡一面 水牛の香爐 名珍人の  
單策一管 海竜王の赤糸一匹 善善畏三卷の善  
提子乃珠敷 猪乃上人法延生の時天より降る  
湯杖いふあり 毎年正月四日 氏射の祭  
とあり社自高山 上別赤城地方にむる  
矢と教の赤城の尚社の神歌なりといふ矢則  
赤城明神乃龍に立氏をたげ日失ぬる乃解と云  
祝詞の矢と抜といふありふる乃赤城

召赤

四三

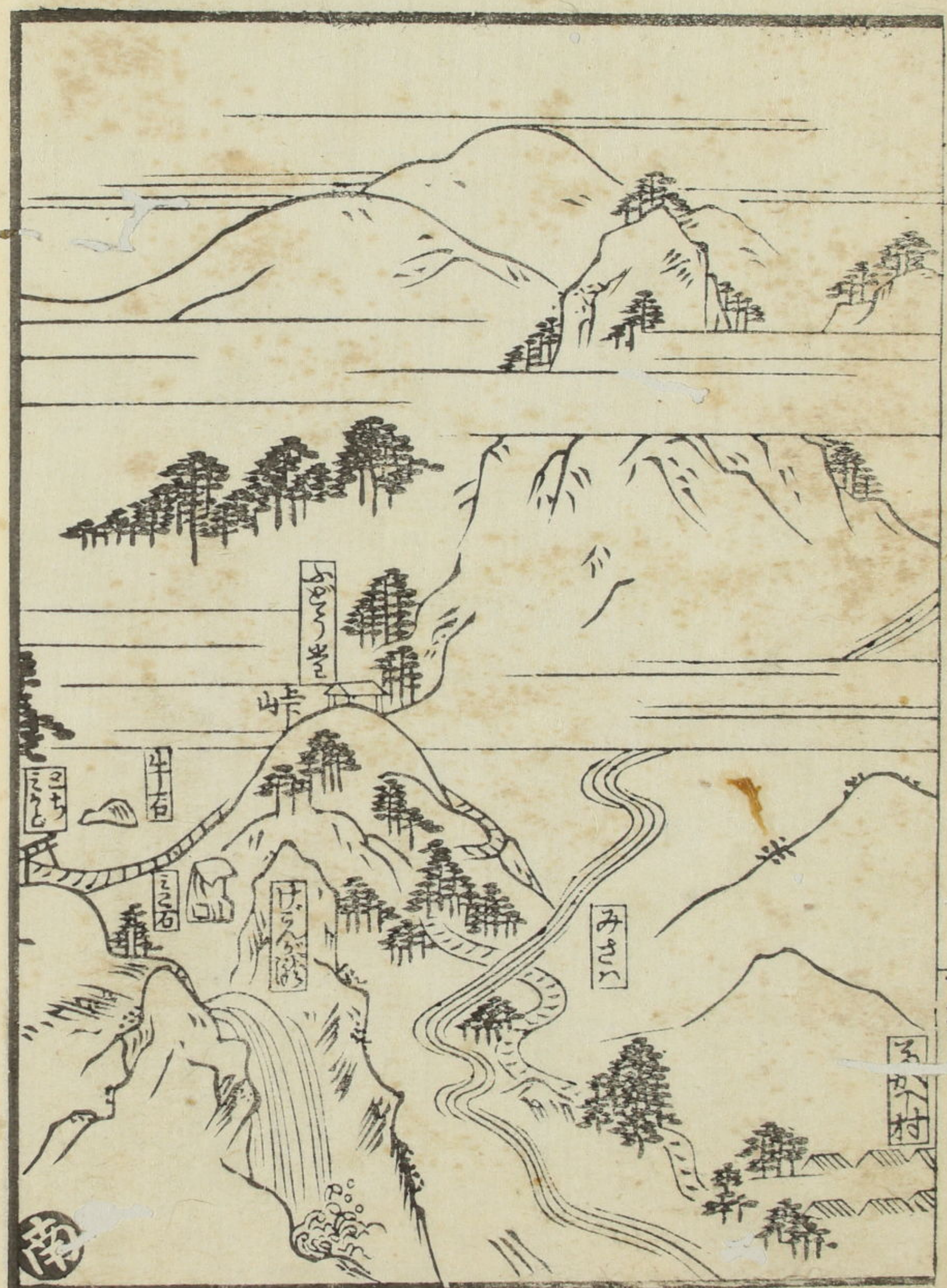


氏子いふ中をいふ山あり申す奉社東の方  
 男體山へ申す乃ありいふふ○碑あり住古弘法  
 補陀落山乃紀とふあり申古法經にあり申  
 准三后公辨親王沙再真ありし

○男體山 又黒髪山とも云 山吉妻比名命に古歌多

少き道をも乃後しく積雪長ありて冬風人  
 乃肌と徹丸山頂ふ○三社権現五世孫小翠公の  
 行はく毎年七月七日世尊に申すは時七月朔日

よ里中道寺別本藤り一七日が習種々の  
 作ありて登る三社を拜しと申す信公  
 至る人奇みの異強にあり申す  
 紀一ありい男體山及三丁申す  
 ○戒壇堂 ○本尊 釈迦 文殊 普賢し  
 此の二箇の土を納るといふ 本社ひが乃  
 ○根本社 ○六伽羅天 ○山王社  
 ○三重塔 本尊五智如来 ○株焼護摩所



湖水乃びらふとほるふらむとせむ

○歌乃瀆 志道八むら 神軍に神徳を以て

ひらふとほ 凱陣ありて 徳奉の神 進ずるを

いふひむら 由ふのく 八むら 奉る

吉祥天奉ふ 彌動菩薩金剛童子ありて 花供

及海山伏の宿あり 毎年三月十三日おふ入

中月廿二日 出雲にふれと 花供の奉といふ

もいふらむ 新河し 海山の巻く 八むら

○寺々清 美師堂 日輪寺 夫子美比

猪乃北清社あり 上野池 湖中乃居し 丁

何方何とあり 猪乃の清 皆に清ふ 池あり

○梵字石 龍虎石 依石

○千手清瀆 龍書堂 共に清傳所あり 龍

秋の龍書堂 乃清傳し 毎年六月 龍あり

七月まで 乃俗七日 乃清 清く 瀆 神 項

龍ふ 龍書 乃清 龍を 清く 龍書 龍書 龍の





○女峰山 ○太師嶽 ○月山 ○白根山

○湯殿山 男爵山 穴水の湯 湯屋少と連りし 夏湯屋 湯屋少と連りし 湯屋少と連りし

○奉嚴院 是は中禪寺 湯屋少と連りし 湯屋少と連りし 湯屋少と連りし

○寺の存と曝き 妙く其のまじり 天竺の 湯屋少と連りし

ぬと銀漢より 酒出るといふ 湯屋少と連りし 湯屋少と連りし

銀河倒掛三石梁 香盧瀑布 遙相望と伝

滝壺と隙石 不月くあさてさびる 今ふあさ

湯の色に奇樹 灵艸の花 結は珠と 冥系し

げあがり ○大平不動堂の少く 出るとこれより

下向して 裏見え 湯へあふ 水沢村のさび

及あや一里ほど ありしとれより 大日堂のうへ

つらつら





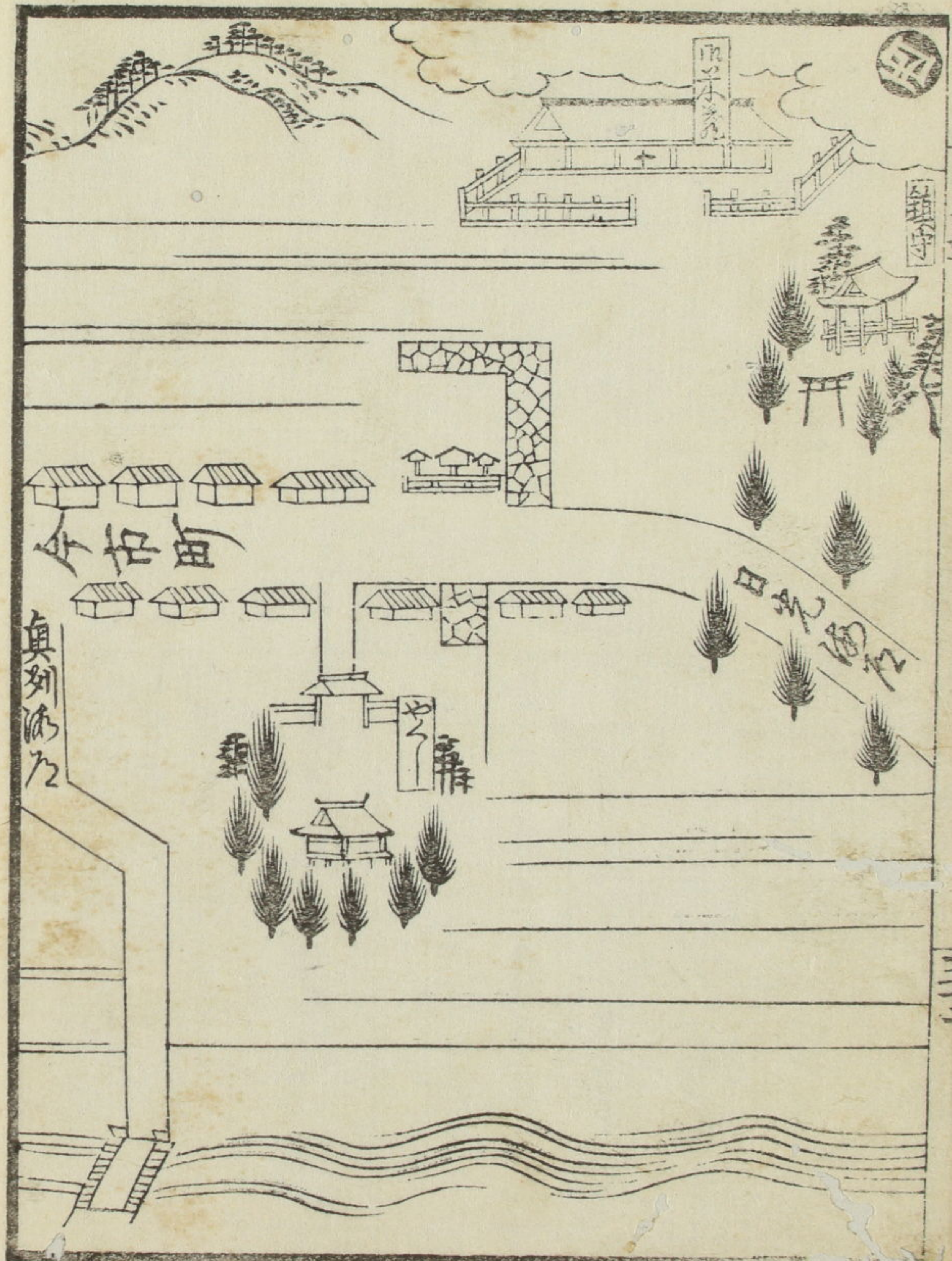
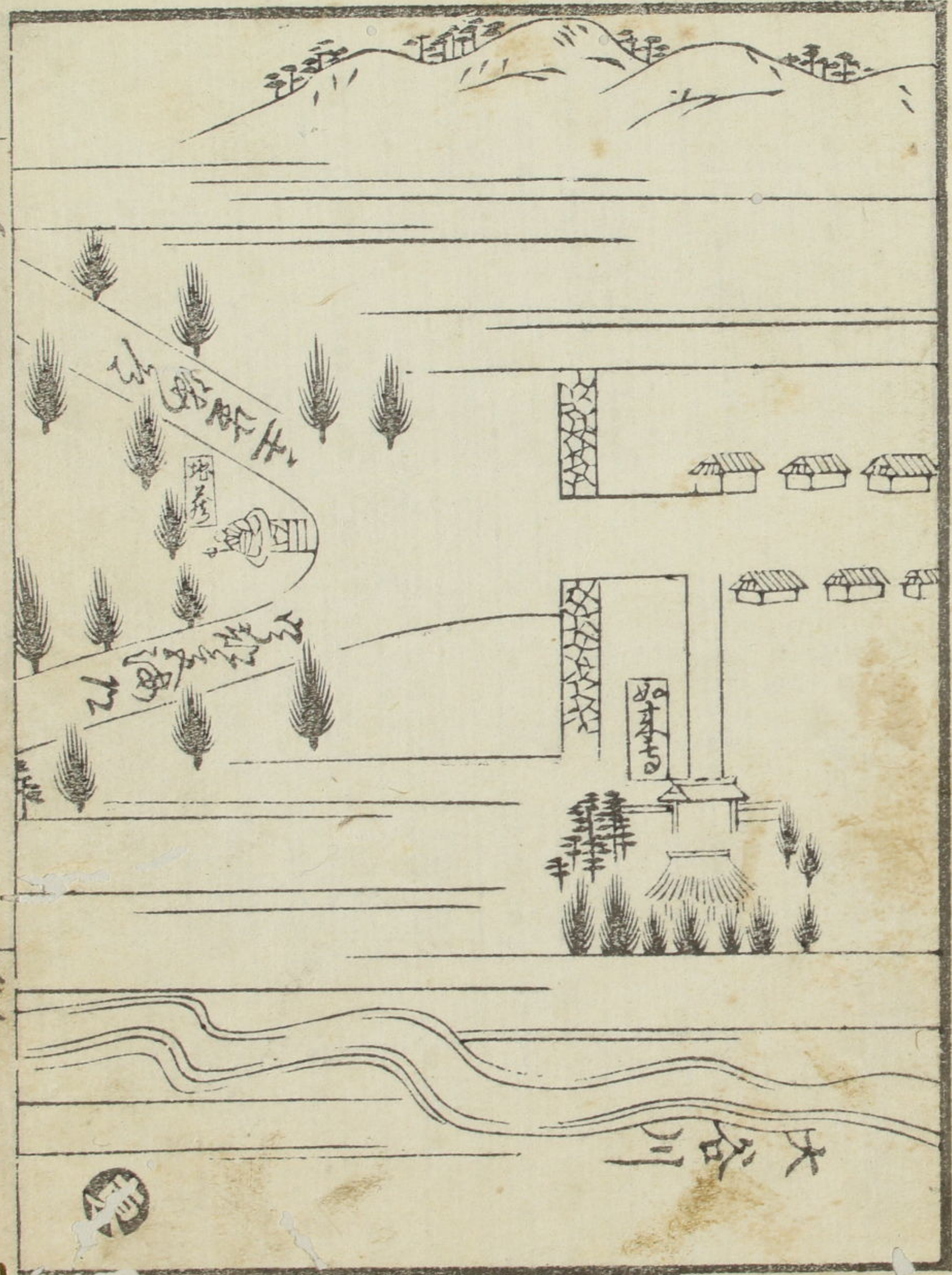


大谷より三十三里あり  
 上流より宇敷迄三重  
 宇敷より 蕨迄二丁  
 ●大田系一十里あり  
 ●流くま一十一里あり  
 ●蕨のま 二十里あり  
 石指一丁半  
 石指 小倉井一可半  
 小倉井 新田一可半  
 新田 小山一丁半  
 ●日光 小山と十六里

蕨より一十丁余あり  
 大門宿より一丁あり流た  
 大のくま出流山のたあり  
 日光より流と及法十三里  
 麻沼より一丁あり  
 素佐木の先小橋本との言  
 沢あり日光より出流と及法  
 くるまをつぐと日光へあり  
 小の橋本より流と及法  
 ぬるなり

△奥羽海道 大田系より  
 今市より大渡へ二丁  
 ける大谷川橋あり  
 大渡より舟生一可半  
 ける新川とあり  
 舟生より玉重一可半  
 玉重より高内一可  
 高内より矢板一可

●日光 小山と十四里  
 素佐木の先 十丁  
 壬生 飯塚一可半  
 飯塚 小山一可半  
 △会津海道 五十里と  
 今市より大森一可半  
 ける大谷川とあり  
 大森より磯一可半



矢板やいた 沢村さわむら 一り

沢村さわむら 大田原おほのたはら 一り半

●日光より十三里半

佐野海乃井上列さのうみ乃いの上りの順路おんろ

榑木はれぎの町まちより榑木はれぎのこへ入るいれ 佐野さのと傍そばあり

榑木はれぎ 金湯かねゆ 一り半

合戦くさつの榑木はれぎ 一り

富田とみだ 大伏おほのふし 一り半

けりぬ 八はちあり

大原おほのはら 一り半

大原おほのはら 一り九丁

大原おほのはら 一り九丁

大原おほのはら 一り七丁

合戦くさつの榑木はれぎ 一り半

榑木はれぎ 富田とみだ 一り半

大伏おほのふし 天明てんめい 一十八丁

日光より十八里余

△日光山坊舎并ひらけさんぼうしや 祐後僧すけごそう 流なが

一山いつさん 学取がくとり

東照宮御別所とうしょうぐうごべつしよ

御靈屋御別所ごりやごべつしよ

新官御別所しんくわんごべつしよ

慈眼堂御別所じげんどうごべつしよ

○衆徒しゆと 中ちゆう 二十坊にじゆふぼう 并なら

祐大すけだい 名な 流なが 宿坊しゆくぼう 附つ

修学院僧正しゆがくゐんそうじ

大樂院だいろくゐん

龍光院りゅうくわん

安粮院あんりやうゐん

无量院むりやうゐん

唯心院ゆいしんゐん 東山とうざん

井伊掃部いゐすべのぶ 松平肥後まつらへひご

南照院なんせうゐん 東山とうざん

松平右京大夫 松平相模守 松平薩摩守 毛利周防守 酒井修理大夫 酒井雅示 松平伊豆守 牧野越中守 大田備中守 仙石美濃守 吉田豊後守 松平加賀守 松平山内守 松平陸奥守	安居院 東山 越城院 日 榎本院 日 後本院 日 醫王院 日 惠光院 日 法門院 日 觀音院 中山	尾刈様 教城院 日 日增院 東山 日增院 東山 日增院 東山 日增院 東山 日增院 東山
松平大炊守 酒井左衛門守 水戸様 内藤後守 松平大和守 佐竹右京大夫 松平出羽守	紀列様 松平土佐守 松平安藝守 松平大炊守 酒井左衛門守 水戸様 内藤後守 松平大和守 佐竹右京大夫 松平出羽守	日增院 東山 日增院 東山 日增院 東山 日增院 東山 日增院 東山 日增院 東山

○一坊八十字

●東山谷

松平右近將監 榊原武若補左	光樹院 中山	戸田山城守 秋元海軍守	照善院 南谷
妙月坊 本龍坊 鏡泉坊 永親坊	妙金坊 悦善坊 秋本坊 実務坊	美濃坊 光榮坊 大光坊 能親坊	日輝坊 日輝坊 日輝坊 日輝坊
永親坊 實務坊	能親坊	日輝坊 日輝坊 日輝坊 日輝坊	日輝坊 日輝坊 日輝坊 日輝坊

● 佛岩谷

西住坊 秋源坊

正定坊 女力坊

竜虎坊 常親坊

女日坊 龜宗坊

● 南谷

務泉坊 本月坊

淨法坊 龜吹坊

光心坊

淨久坊

竜親坊

林友坊

長親坊

光善坊

清源坊

親女坊

大月坊

龜宗坊

城子坊

龜孫坊

忍性坊

仲善坊

善善坊

行宮坊

醍醐坊

当光坊

城祐坊

女孫坊

● 西山谷

不動坊

智親坊

頌善坊

善祐坊

極正坊

女親坊

深女坊

龜孫坊

正善坊

慶住坊

正範坊

親徳坊

唯親坊

什光坊

永南坊

龜孫坊

● 善女寺谷

性高雨小善女法師の社あり

文林坊  
実務坊  
教光坊  
正光坊

光禪坊  
文月坊  
妙光坊  
様美坊

禅心坊  
理宣坊  
深教坊  
林舟坊

明心坊  
蓮勝坊  
金務坊  
道龍坊

# 大橋村

## 清水長重邸

日光名跡誌 大尾

# 大橋巻

# 長重良邸

